



ご挨拶

同窓会長 西中紀博



今年の同窓会総会の日も間もなくとなりましたが、同窓会員の皆様方にはお元気でご活躍のことと
 思います。懸案でありました新しい同窓会名簿が、先般五月一日付
 で発刊の運びとなりもう既にご購
 入いただいた方もあると思います
 が、立派に出来上がりしました。名
 簿発行に際しまして、直接作成に
 携っていただいた方々、また資料
 をお送り下さいました会員の皆さ
 ん方に厚く御礼申し上げますと共
 に、どうかこの名簿を大いにご活
 用いただき、同窓の好誼を一段と
 深めていただけることを期待して
 います。

さて、昨年来ご退職されました

辻野校長先生、渡辺事務長先生等
 のご尽力に依りまして、同窓会の
 運営も明るい見通しがたつよう
 なり、また本年、松川校長先生、
 山本教頭先生ならびに顧問の高橋
 先生、林先生、阪口先生方と四月
 以降数回に亘り会合を持ちまして、
 これからの同窓会のあり方につ
 いて種々ご意見をお聞きいたしま
 した。いずれの会にも役員は殆んど
 フルメンバーで出席して、貴重な
 御指導をいただいで、今後に生か
 したく考えております。

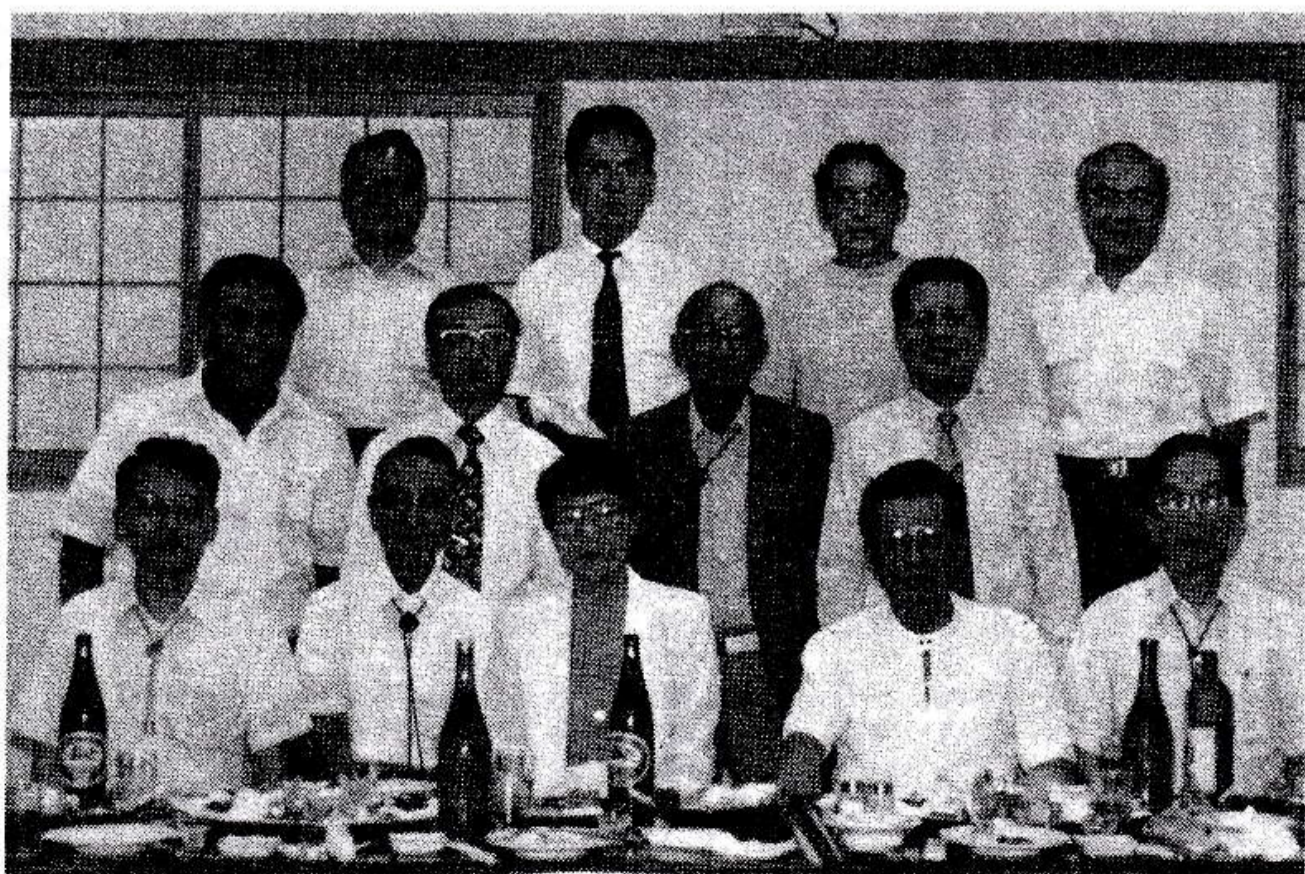
旭高校もすでに三十有余年の歴
 史と伝統を経て、大阪府下でも屈
 指の名門校になりました。私達卒
 業生といたしましても本当に有難
 いこととあります。いくつになっ
 ても母校は良きもの恩師のお元氣
 な顔を拝見すると、胸が一杯にな
 ってしまいます。今年はこの会報
 を皆様方にお届けできる関係もあ
 り、昨年よりきつと沢山の同窓生
 の皆さんとお会いできることと大
 変楽しみにしております。また、

第 15 号

発行
 旭区高殿 5-6-41
 大阪府立旭高校同窓会
 発行人 西中紀博
 編集
 旭窓会報編集委員会
 印刷
 サンライト
 (36) 3505
 (34) 1832
 0723

聞くところによりますと、各卒業
 期ごとやクラブのOB会が会合を
 もったりしてとみに活発化の兆し
 がありますこと、これもまた嬉し
 いこととございます。同じ屋根の
 下で数年間、語り合い、時にはま
 た口角泡を飛ばして議論もし、汗
 みどろになつて身体をぶつけあ
 ったりした仲間が、久し振りに集
 うことは何ものにも替え難いと思
 います。
 それから、あとになりましたが、
 当日は沢山の先生方がお越しいた
 だけますので、どうか万難を排し
 て皆さんご出席下さるようお願い
 いたしまして、ご挨拶といたしま
 す。

オーイ！ みんな 元気かー なつかしいなあ！



10月27日(日)午後 1 時 母校に集まれ！

＝総会・懇親会のご案内＝

さわやかな秋晴れ、菊薫る好季節、今年も昨年同様懐かしい母校に恩師を多数お迎えして集いたいと思ひます。皆様お誘い合わせの上、是非、ご出席下さい。

記

日時 昭和六十年十月二十七日

(日) 午後 一時～四時

場所 母校会議室及び旭窓会館

(地下鉄・関目駅下車スグ)

○総会 一時～二時

一、開会の辞

二、会長挨拶

三、学校長挨拶

四、議事

五、閉会の辞

○懇親会 二時～四時

○会費 二千円(三十期以後は、
二千円) (当日徴収)

○会場準備の都合上出欠を同封

のハガキにて、九月末日まで

にお知らせ下さい。(切手貼付)

尚、マイカーでのご来校はご

遠慮下さい。

特集 現在の旭高校

次代への新たな飛躍を目指して!

旭高等学校の近況について

校長 松川義明



昨年四月、辻野鹿雄先生御退職の後をうけて本校第七代目の校長に就任以来、はや一年あまりの月日が経ちました。

この間、同窓会会長をはじめ、役員ならびに会員の皆様から格別の御厚情と御支援を賜り、深く感謝している次第であります。

おかげさまで、母校も府立高校が現在一五三校を数える中で、四十八番目創立の高校としての伝統と風格を一層高めてきておりますことは御同慶の至りと存じます。

御承知のごとく近年の高校進学率上昇にともなう高校生の急増と時代や社会の要請は、高校教育に

さまざまな変容をもたらしてきています。本校においても新設校への教員配置などで、最近三カ年間に教員の約半数が入れ替りました。また、創立当時一学年八学級の規模が今や十二学級となり、校地や校舎が狭く不足してまいりますので、やむなく本年度二学期から正門入って左側、体育館の北側に四教室分(二階建)を建設し使用するこ

とになりました。もっとも、この高校生急増も昭和六十二年度まで、以後は逆に急減期に入り十年ほど後になれば、高校生は現在の三分の二ほどに減少してしまい、空き教室が増え大きなゆとりができるようになります。ともあれ、生徒増問題で関係者はその対策に苦慮しているところであり、本校の属する第三学区では校舎を建て替えて高層建築にする予定の府立高校もあるほどです。

このような状況にもかかわらず、本校の教育活動は活発に展開され、

とくにクラブ活動等においては各部門で大きな成果をあげています。二、三紹介いたしますと、昨年九月からオックスフォード大学出身の英国人女性教員が本校に配置され、英語の授業やE・S・Sの指導に当たり教育効果をあげているほか、本年四月から講道館七段の柔道講師が配置され、柔道部の実力向上が大いに期待されています。

旭高校の草創期の思い出

現・大阪府立和泉高校校長 高橋京平



旭高校は私の教員生活だけでは

なく、私の生涯にとって忘れ難い心のふる里である。旭の創立は私の教員生活の振りだしの年と機をいつにしており、また昭和五十二年三月までの二十三年間、職を奉じ、この間数々の思い出を心に刻み、大過なくその責を担うことができたことを感謝している。私は長きをもって尊しとする考えには、必ずしも賛意を表するものではないが、自分なりに年数に重味を感じている。

吹奏楽部も設立十周年を迎え、本年三月二十二日に森の宮青少年ホールで記念演奏会を開催したところ、千二百名の収容席が満席となり、立って鑑賞していただくほどの盛会でありました。今後とも同窓生各位の一層の御活躍と母校に対する積極的な御支援をお願いし、御挨拶いたします。

旭も今年で創立三十三周年になり、草創の頃の世の情勢も日々疎くなるのが世の常である。記した事は枚挙に遑がないが、若干の事を記して回想の資としたい。

私は旭の開校三年目に埼玉県の公立高校から転任してきたが、今振り返ると初代校長の綾仁信治郎先生は、府立高校長随一ともいえる実力に裏打ちされた、強力で優れたリーダーシップを発揮され、同教頭坂本正一先生は知性と温か味のある人間性で教職員を指導されたこと、そして範とする先輩諸兄姉にめぐりあい、その積み重ねが現在の私を支えていると思ひ、有難く思っている。当時の高校新設は数が少なく、近年の状況と隔世の感がある。旭と前後して開校した高校は、吹田(昭二十五)・

島上(昭二十六)・旭(昭二十七)・能勢(昭二十九)・東住吉(昭三十)というところで、現在府立の普通科校だけで約百四十校に達している。府立四十八高校として設置された旭も、今や名実ともに府立高校中堅校の一つとして成長したことを、限りなく喜んでゐる。旭が産声をあげた昭和二十七年は第二次世界大戦の後遺症がまだ残っていた頃でもあり、必ずしも世情は安定していなかった。戦後の三大公安事件の一つとしての吹田事件の発生、破防法の衆議院通過、李承晩ラインの宣言など、暗いニュースが続くなかで、対日講和条約の発効、皇太子立太奉祝式のような明るいニュースもあった。

旭の創立は占領下から開放され、日本が独立した歴史的な年に誕生したわけで、全国に高校多しといえども、きわめて意義深い由緒のある高校であることを再認識したものである。

当初は雨が降れば城北運河の水が逆流して旭の運動場に溢水し、蛙の鳴声がうるさくて宿直の夜寝つきにくかったことなど、述べればきりが無い。人間はとかく条件が悪いときほど創造・工夫・努力をし、成果を挙げることが多い。腹八分とはまことに至言である。旭高校が地域の期待に応えつつ、ますますの発展をめざし、教職員各位ならびに生徒諸君が、より一層ご奮闘されることを、卒業生諸君とともに心から祈る次第である。

旭高校生今昔



理科
坂口 登

昔といえ、創立もない初期を思い出します。昭和三十年四月に旭高校へ転任してきて、四期生の担任になったのが始まりです。それ以来幾度か担任をくり返してきましたが、変わっていないのは、生徒諸君がおとなしくて純真で、品性のよい生徒が多いことです。

反面、変わったところは、やる気の変化です。創立間もない頃の学校は、どこも同様でしょうが、教師も生徒もはりきっていて、やりにやいかんという意識が強かったし、そう思っている者が多く、やろうという雰囲気クラスにあったように思います。また、新設の旭ゆえ、少しでも早く既設校に追いつけ追いこせと、学校もハッパをかけるし、生徒もその気になる、というよう、今では考えられないことですが、早朝講習というのもあって朝早くからがんばりました。

校門の前の本屋 高殿書店です

が、現在では九〇%をうわまわり、学習意欲の低い生徒が入学していることを考えると、無理からぬ点もあるようです。また、予備校生の著しい増加により不利な立場に追いやられ（この点は本当に同情すべきことと思いますが）どうせ現役ではだめだ、ということでしょう。どうか、真剣にやらん生徒が増え、良い雰囲気が生れないのが残念です。

早く、何を指して今何をすべきか、を自覚し、その時々に応じてベストをつくすようになってほしいものです。

旭の生徒さんのおつき合いもお店を始めてからですので、二十年になります。振りかえってみても旭高校の評判は変わらず、この辺では人気の高い学校の一つです。

それというのも、学業成績のレベルが高く、全体におとなしい真面目な生徒さんたちだからではないでしょうか。普段でもそうです。特に試験前などは、参考書を買って、よく勉強されるなど思います。毎年入学の時期が近づいてくると、正門にある見事な桜と、合格された新一年生の笑顔を見るのが楽しみです。この人たちが、卒業されて、久々に懐かしい顔で、お店に立ち寄り寄ってくれたりした時などは、大変嬉しいものです。

こんにちわ！

学校食堂のおばちゃんです

卒業された皆様、社会に出られた皆様、学校におられた時には、食堂を利用していただきありがとうございます。とう御座居ました。

卒業した人達がときどき食堂に寄って言葉をかけて下さる時はとてもうれしいです。社会人としてたくましい姿を見ると懐かしく、学生の時は私達をよく困らせてくれた人たち、今の生徒さんもよく困らせてくれますがこの人達も卒業すると立派になられるのですよ。

旭高校在職十六年

現・大阪府立松原高校主事
黒川 鈴 三



旭高校同窓会会員の皆様方におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。創立三十有余年の歴史を有する旭高校の卒業生の中には、社会の第一線で活躍されている方々もおられると思ひますが、私ごととき若輩ものに原稿依頼の栄を賜り光栄に存じます。

昭和四十四年七月十日、旭高校勤務の発令を受け事務職員として着任。以来十六年の年月に及ぶ期間を過ごして参りました。旭の歴史の半分を過ごした勘定です。皆様方とは、直接に接する機会の少ない事務室ですが、窓口徴収時の授業料納入や各種奨学金の支給事務・各種証明書の発行事務等で私の事をご存じの方もおられるかと思ひます。

私の信条として、「教職員」も「生徒」も「学校の構成員の一人」であると同時に「大阪府民の一人」として、

であるという観点のもとに仕事を進めてきたつもりですが、何分にも若輩の身ゆえ多々めだるい点も有ったかとは思ひますが、その点はお許し下されたくこの紙面を借りておわび申し上げます。同窓会会員の皆様方にとつては思い出深い学校生活で有りましたでしょうが、「社会人として」・「一職員として」の旭在職十六年の間の思い出は、あまり浮かんで来ません。逆に嫌な事ばかりが頭に浮かんで来る始末です。

この四月十五日人事異動により松原高校に転出しまして、外から「旭」を眺めて見ると、「旭高校は十分に成熟した学校」との印象を抱いています。同窓会会員各位におかれましては「旭高校卒業生」の誇りをいつまでも持たれると共に、今後とも教職員並びに後輩へのご指導・ご支援を賜り、旭高校の益々の発展のためにご尽力下されれば幸いに存じます。最後に、お世話になった同窓会各位並びに現・旧教職員各位に感謝の意を述べると共に皆様方のご健康とご多幸を祈り筆を擱くことといたします。

お久し振りです



技師
小林和吉

今年の春三十一期生を送り出したと思つたら夏休みも近づき旭の生徒も勉学に運動にと生き生きとした姿が見られます。

創立三十年も経つと、学校もそれなりの歴史というか、世の中の動きと共に色々な様変わりが見られます。

校舎も色あせてきています。初期の卒業生の皆さんも機会を作っ

て、一度母校を尋ねてみて下さい。自分の歴史を振り返ってみて、時代の流れを再認識してみるのも、過去の人生と、これからの自分の人生に対する何かの指針が得られるのではないのでしょうか。

最近の旭高校では、生徒数も千五百九十五名、職員数も九十五名と大世帯で昼休みになると、生徒が学校中に溢れると言う感じがです。私は折にふれて生徒諸君に、旭の在学期間を通じて自分の人生に忠実であれと語っています。

同窓生の皆様、何卒、十分御自愛の程を祈ります。

「同窓会らしく」への提言

梅本憲史

六期
梅本憲史

世間一般に同窓会といえは小学校のそれが最高に同窓会らしく、何といつても諸先生方をはじめ、級友の面々と語りあう話題も多い。つい懐しく、相手がどんなに偉くなつていようと、「おい」と親し

くよびかけ、名を呼び捨てにする。それが中学校になると、当時の成績のことがふと頭に浮かんだり、悪童の経歴が思いだされたりして、さらには現在の社会的地位なんかも胸にちらちらして、——といつ

ても、まあ、小学校同窓会とそれほどの違いはあるまい。

ところがだ、高校、大学へと進むにつれて、だんだんと呼吸がしにくくなり、肩がこる。同級生の中には富豪らしき者もおれば、学者らしき者も珍しくない。政治家らしき者もおつて、胡散くさい。胡散くさいから肩がこる。肩がこるから出席率もかんばしくない。

政治家らしき者として、責任は感じるが、政治家らしき者の側から言えば大変心外な責任である。人間の生きざまなんて、職業や社会的地位は、その価値を決める何の尺度にもならない。価値を決めるのは「人間らしき生き方」以外にはない。釜が崎にだって、人間らしき生き方をしてる人はやまほどこいふんだ。巨億を積んだ大富豪も、実は詐欺まがい商法による虚像に過ぎなかつたということもあるんだ。

高校や大学の同窓会は、まずこの社会的「らしき者」の垣根をとりはずし、ついでに年齢も元にもどして、「おお」「やあ」と声がかけられるようにすることが先決だ。

その意味で、同窓会の会合では①集合場所を旧教室にすること。②先生の講義を一時間ほどきくと。③それから懇談会。というプログラムを提案する。それでこそ「同窓会らしく」なろうというものである。

(大阪府議会議員)

(大阪商工会議所議員)

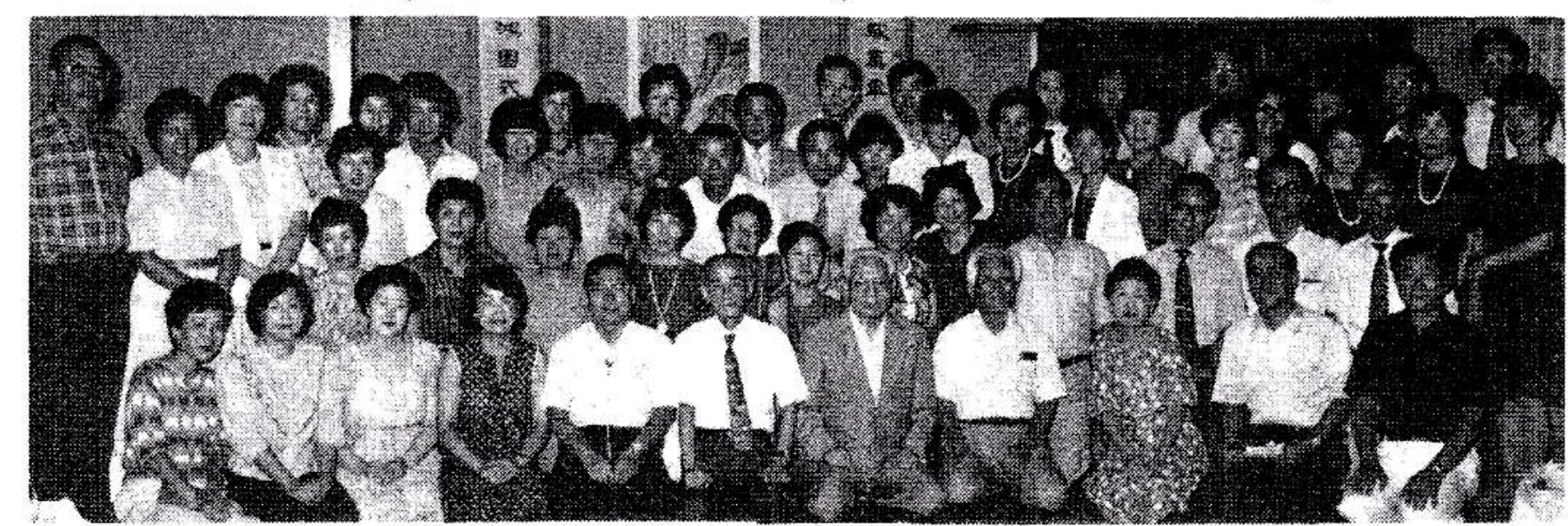
初代校長、教頭先生を

迎え二期会開く

昭和五十八年八月二十八日(日)京橋の大北京和室大広間で二期会を開催。

卒業時の担任、橋、高橋、松村各先生に加えて、今回は二期生が旭に在学当時の学校長、綾仁先生、同じく教頭の坂本先生をお招きしての盛大な同期会となった。さらに養護保健の根本(旧姓山本)先生もご出席下さり、話題は当然旭の草創期の苦労話や当時の生徒氣質に及び、皆んなの気持はタイムトンネルを潜って、はるか三十年前に逆もどり。ひとしきり高校時代の想い出話に花が咲き、「ワァッ」とか「ハッハッハ」とか苦笑、爆笑が渦巻く。

所用の為に出席できなかった恩師やクラスメイトからの便りも、幹事から回覧、披露される中、おたがい白いものが頭にチラチラ出はじめているというのに、この時ばかりはピチ／＼の高校生の気分を手を取り合い、肩を叩き合つて歓談。名刺の交換や我が子の話、果ては人生相談の事まで飛び出して、しばし時の経つのを忘れている間に、閉会の時刻が迫り、松村先生の指導で、旭高校校歌を一同声高らかに合唱、往年の旭高健児の意気を会場一杯に轟かせて、和気藹々裏に幕となった。



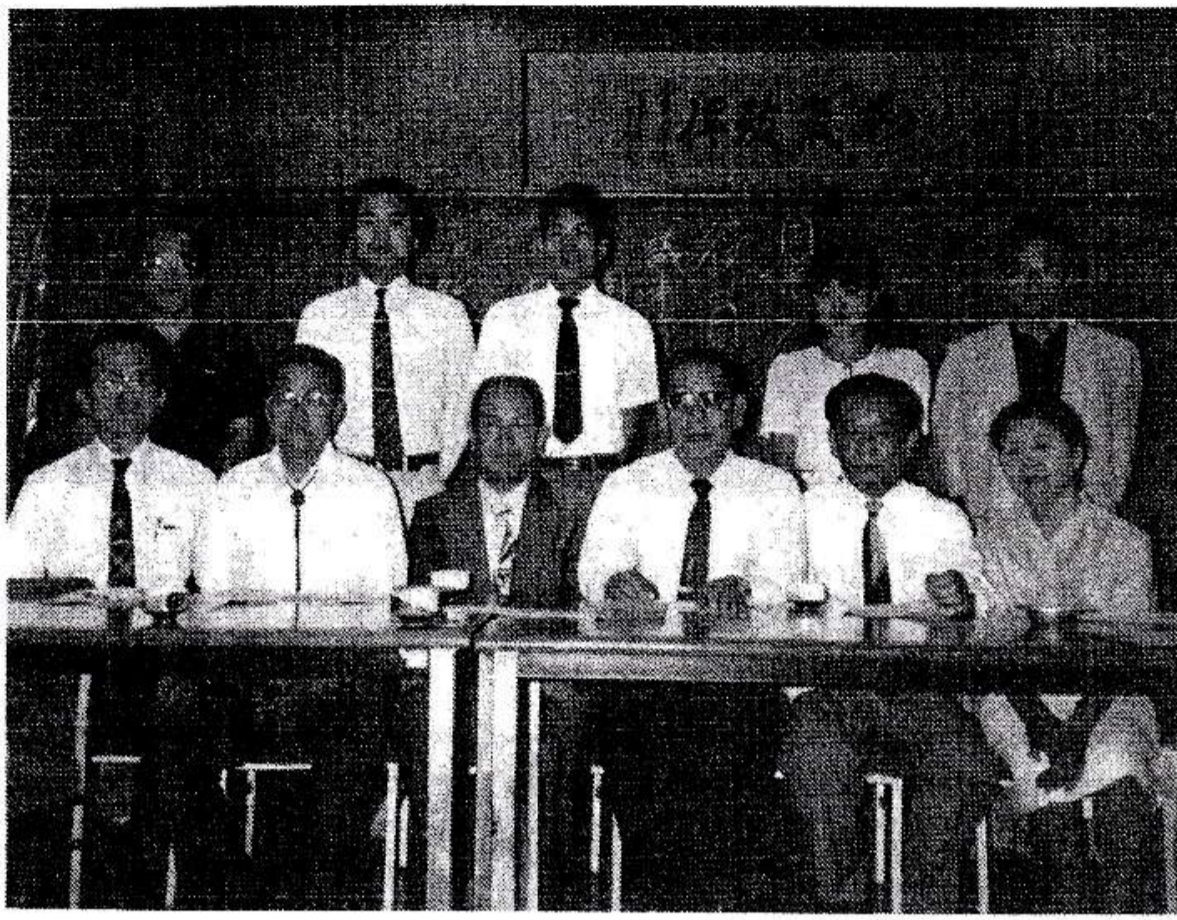
(二期会幹事・西中)

同窓会新役員決まる!

昨年十月の同窓会総会において、新役員の出選が行なわれました。会長の西中紀博(二期)と、会計の後藤芳嗣(十八期)は留任し、副会長には永い間お世話いただいた吉田(曾川)寿子(二期)に替わり、上浦康平(四期)・谷田(滝野)熙子(二期)の二名が新しく選任されました。また、新しく設けられた書記には日下部博二(十八期)が会計監査より移り、その後任には吉田光一郎(二十一期)が決まりました。

なお、校内理事には、上村良雄(十四期)・内田富士夫(二十期)・阿辻(入江)佳代子(二十三期)の、現在母校で教鞭をとっておられる同窓生三人に、ご無理をお願いすることになりました。

役員・理事・同、微力ながら母校・同窓会のため精一杯努力いたします所存でございますので、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



校長・教頭・坂口先生を囲む新役員と校内理事

天台座主 山田恵諦大僧正揮毫の扁額寄贈にあたって(上)

同窓会長 西中紀博

同窓会の役員会や卒業式等で、母校を訪れるたびに、後輩諸君の姿を見るにつけ、今この後輩達に先輩として何かしてやれることはないかとよく考えます。

本年六月の役員会の席上、松川校長先生から、校長室の新装が為されることをお聞きしていた事で

これは良い機会だと思い、同窓会から扁額を贈ってはと役員諸氏に相談しました。そうしましたら、「会長、それは宜しいな。」と即座に話がまとまりました。校長室は何といても学校の要の場所でありますし、そこに在校生諸君が入ってきて書かれていく文書を見て

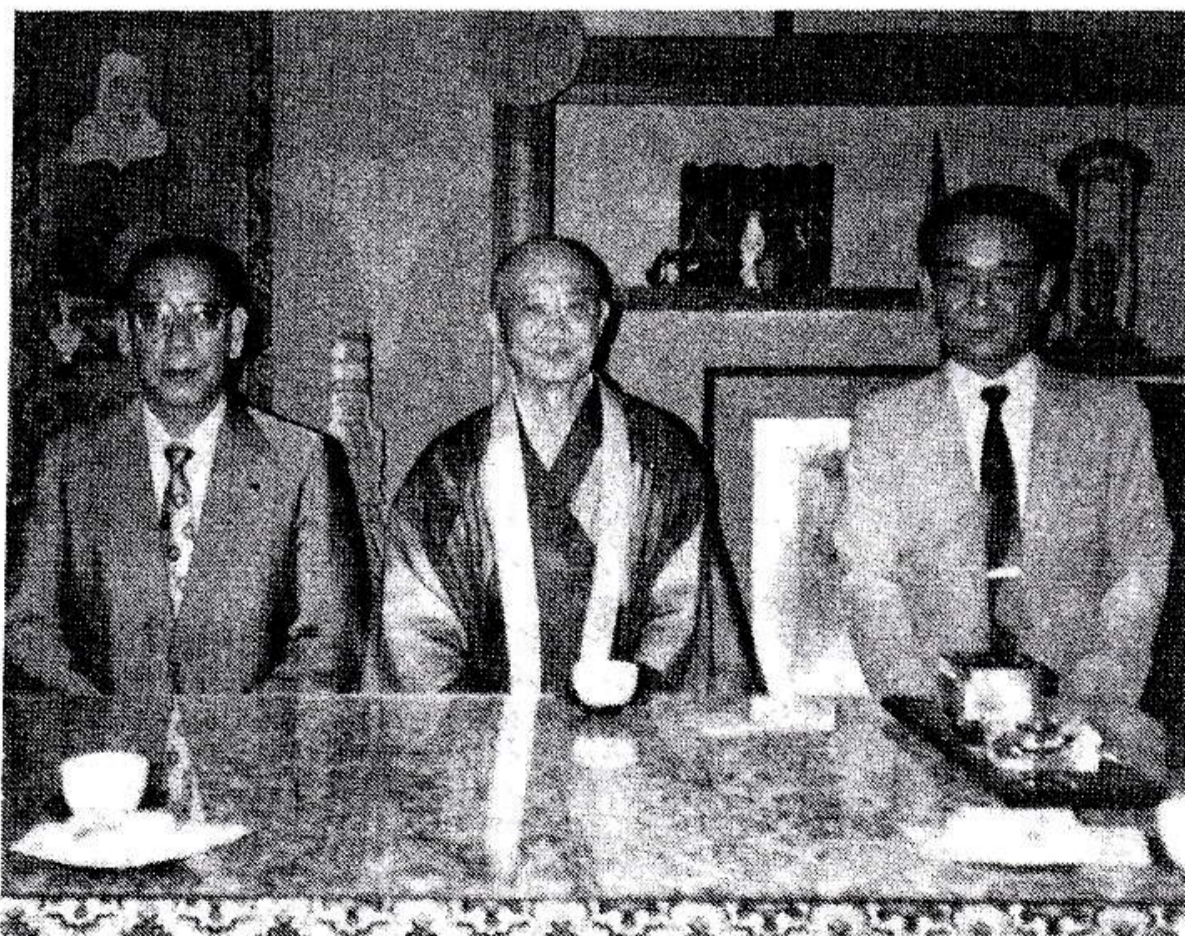
自己の創造に資してくれるような教訓を揚げられればと考えました。それで、このような趣旨をふまえて、日本でも屈指の高徳なる方に書を認めていただくとういうことになり、天台座主山田恵諦大僧正貌下にご依頼することに決し、早速上浦副会長を通じて依頼の手筈を整え、七月七日に私と二人で書をいただきに参りました。書は滋賀坂本の瑞応院で、貌下直々にお手渡し下さり、伝教大師の示された人材養成の基本、教育の本義である「能行能言」と大書して

ただいております。そしてこの文言の意味するところを実に懇切丁寧に教えて下さり、「能く行い能く言う人がいちばん尊い人である」ということを私共に具体例を挙げて約一時間に亘ってお話いただき、その話の中で「あなた達が、

出身の学校のことを、今もなおもって心配していただくことはありたいことです。どうかしっかりとやってください。」と激励して下さいました。そうしてご自身も、今日の日本の国の青少年の教育問題、国際社会の中での日本の立場、また日本人の立場等々非常に多岐にわたってお考えいただいている様子をお伺いして、私も上浦君も胸が熱くなりました。

(次号へつづく)

尚、「能行能言」については、次の会報で詳しく記します。



天台座主・山田恵諦大僧正(中央)と
西中会長(左)・上浦副会長(右)
昭和60年7月7日、瑞応院にて

クラブ活動

—あれこれ—

VIPスキークラブ

十八期 東野正彦

十八期から二十一期のスキー部OBを中心に、他のクラブのOB・家族・友人またその友人までが集まって「VIPスキークラブ」を作り、十年になりました。



冬から春はスキー、春から秋はテニスにと一年中ワイワイガヤガヤ楽しんでおります。

アフタースキー、アフターテニスの方も活発で、みっちり練習した後は、いい汗流した後の爽快感も手伝って、明るい雰囲気の中で次々と今度の予定などへと、話が弾みます。

社会人がほとんどですので、年一度会えるか会えないかのメン

バーも多いのですが、まあ無理をせずに気ながに気楽にやっています。今度、ごいつしよしませんか？

詳細はお電話で！(夜九時以後)

☎〇七四三五・六六四七八まで！

バレー部OB会

会長・四期 上浦康平

旭高校のバレー部も、クラブらしいチームになって三十年の歴史をもつクラブに成長した。対外試合をはじめ実施したときの感激を未だに忘れることが出来ないで、現役の仲間と時々練習する昨今である。

現役の最近の状況について紹介すると、男子チームは立派な顧問の先生を迎えて、毎年三月頃、合宿練習を重ねて、本年は三部で活躍している。女子チームは、OB・OGのコーチが熱心な指導を重ねて、一部で活躍し、六十年七月二十三日から二十五日まで、和歌山県で開催される近畿大会に大阪府代表で出場することになった。男女とも現役バレー部は活発に活動している。

五十八年八月には、旭高校バレー部OB会も発足し、毎年八月の第四日曜日に開催して現役との楽しい練習を行なっている。OBは是非参加してもらいたい。

近い将来には、OGの参加を求めて、卒業生全体の旭高バレー部

OB会に発展させ、現役の指導、OBの親睦を重ねて白球を追った楽しい思い出いっぱいな会にしていきたいので期待していただきたい。

テニス部です！

テニス部 (男子)

今の男子テニス部の活動状態は、いま一つハリがありません。しかし、三年生が引退した今、少しずつではあるけれど、二年生なりに頑張って自分達のクラブの雰囲気を作ろうとしています。

乱打、ファーストサーブ、ボレー、レシーブ…その他いろいろな練習をしています。しかし、今のままでは、いけないと思います。もっと自分から声を出し、積極的に行動していかなければ本当に充実したクラブとは言えません。

時間ばかりをかけるのではなく、短時間でも集中して練習した方が実力がつくと思います。二年生、一年生、マネージャー関係なく、自分の思ったことは、自信をもって発言することが一番大切だと思います。

テニス部 (女子)

現在のテニス部女子は、部員数二十三名(二年十一名、一年十二名)で活動しています。

三年生が五月十一日引退してから、約一カ月半が経ち、不安定だった状態から、ようやく軌道に乗った状態になりました。

暑くそして、長い夏休みになり、それをどうやって乗り切るか、悩む毎日ですが、勝ち気だけは十分にあり、七月末にある個人戦、八月中頃にある団体戦に向けて、練習に励む毎日です。

目指すは中央大会、何組のペアが行けるかわかりませんが、一つでも多く、と思いがんばっています。

もし、お暇でしたら、是非お越し下さい。そして、ご指導をいただきたく思います。お待ちいたしております。



吹奏楽部

今春、わが音楽部吹奏楽パート

は、創部十周年を記念して、演奏会を開かせていただきました。その節は、同窓会を始め、多くの方から御支援をいただき、本当に心強い思いがしました。どうもありがとうございました。

十年の伝統をもつ現在、部員数も五十名を越えるほどの、大きなクラブになりました。しかし、楽器は高価なために、まだまだ充分とはいえず、他校から借用していただきますし、練習場所も同様に、特定の場所がないために、近所の方々の苦情で練習ができなくなるこ

とも度々あります。ただ、部員の音楽への情熱と意欲だけは、この現状をカバーするに余りあるもので、毎日頑張って練習しています。今後共よろしく願います。

卓球部

顧問 衣川和男

昭和五十九年十一月、卓球部創部以来初めて全国大会(三十期生横山美知子一全日本ジュニアの部)に出場する事ができました。その他、五十八年度女子ダブルス・ベスト八(井上・横山組)、男子シングルス・ベスト六十四(永田君)、五十八、五十九年度女子団体ベスト八と好成績を修めています。

過去二、三回戦しか進めなかった卓球部ですが、日頃の練習の成果が実り、地区代表になったり、大阪府代表として京阪神大会、近畿大会にも出場することができました。

これからも「努力」の二字を合言葉にチャレンジ精神を忘れず、卓球人の育成に努力し、微力でも卓球部の発展に寄与できればと願っています。

放送部

私たち放送部は、現在二年生二人、二年生二人で活動しています。少人数ながら、なかなか活動は活発です。まず、入学式に始まり、体育大会、文化祭、卒業式等の学校行事には必ずかき出されます。中でも、

文化祭中に行われる、合唱コンクールは、我が部主催ということもあり、年間行事の中で最も大変な行事のひとつです。

そして、忘れてはいけないのが、年に一回、毎年六月に行われる高等学校放送コンテストです。このコンテストには毎年参加しており、昨年度は三十一期生の先輩が、アウンス部門で見事府二位となり、全国大会でも健闘されました。最後になりましたが、OB会が二年に一度、八月頃に開かれます。

幻の珠算同好会

十八期 日下部博一

珠算同好会は、ただ十八期の一年の時の同じクラスの中に珠算の上手な人（十段と八段）がいて、その周りの友達が放課後遅くまで学校で遊んでおられる理由をつけるために創った便宜上の同好会で、動機はいたって不純であります。きっかけがそんな事なので、あまりまともな活動はした覚えはありません。

男性のメンバー四人毎で、デューク・ダックスやダーク・エイセスなどという男性合唱団を作り、皆なお揃いのユニホームで、二年も連続して文化祭に出演して大恥をかいたのが一番の思い出ですから……。

また、天気が良ければ、他のクラブと親善ソフトボール大会や、親善バレーボール大会をしたり、雨が降れば、校舎の廊下で教師用の大型ソロバンを二台使って、そ

れに乗ってどっちが速いか競争したりで、ついには、顧問の倉西先生に「お前ら、そんなんばっかりやってんと、たまにはソロバンの練習もせえや」と、半ば諦め顔で言われる始末……。

会員一同「これではいかん!!」と、気分一新ノ全然練習もせず、会員三人が珠算国民大会大阪予選に出場すると、東商高、天王寺商高に次いで見事二位となり新聞にも大きく掲載されました。

でも、残念な事にこの同好会も十八期の卒業と同時に自然消滅してしまいました。

この正月、その時のメンバーが倉西先生宅に集い、夜の更けるまで、ノドが枯れるまで騒ぎました。

その帰り際の倉西先生のお言葉、「お前ら、いつまでも機嫌よく遊んでんと、もう何でもええからはよ、嫁はんもらえよ!」

いっぺんに酔いが醒めました。



寄附金

御礼とお願い

同窓会長 西中紀博

五十八年八月より本年七月末日までの間、下記の皆様より多大な寄附金を頂戴いたしました。

本来ならば、参上の上御礼申し上げるべきところ、略儀ながら紙上をお借りして心より厚く御礼申し上げます。

皆様、本当にありがとうございました。

これからも継続して参りたいと思っておりますので、今後共尚一層のご協力を賜われますよう重ねてお願い申し上げます。寄附金のご送金は同封の郵便振替払込書をご利用いただければ幸甚に存じます。

59年度決算書及び60年度予算書

母 校 人 事

昭和五十九年・五十八年度に次の諸先生方がそれぞれ転出されました。

◎五十九年度

辻本 信美 (八尾北)
辻下 順一 (福井)

松本 清豪 (守口)

坂野 真以知 (西淀川)

西井 悦子 (福井)

片岡 以津美 非講

中村 美代子 講

◎六十年年度

森本 英毅 (信太)

矢部 吉英 (清水谷)

桐山 成人 (柏原東)

小林 和男 (阿武野)

黒川 鈴三 (松原)

小椋 隆 (府教委)

以上の先生方の転出に伴い、次の諸先生方が転入されました。

◎五十九年度

松川 義明 校長 (松原)

内田 富士夫 (門真西)

佐野 富士彌 (大手前)

渡辺 務 (池島)

板倉 英治 (守口北)

仲 明世 (桜塚)

福島 純子 (新任)

吉田 景一 (西淀川)

堤 和人 (布施北)

藤原 ハマ子 (今宮)

安藤 和久 (新任)

小寺 真生 (新任)
直田 弘美 講

◎六十年年度

中村 巖 事務長 (門真南)

乾 剛 (南寝屋川)

正木 豊 (茨田)

和木 勲 (布施北)

樋上 晃二 (門真)

大塚 堅三 (布施北)

東 真須美 (芥川)

大谷 哲生 (北淀)

宮崎 美代子 (西成)

大田 秀稀 (府教委)

永山 亮一 (阪南)

井上 晃 講

退 職

◎五十九年三月末日付

辻野 鹿雄 (校長)

長瀬 静子 (保健体育科)

芳村 謙二 (社会科)

伊藤 章 (英語科)

◎六十年三月末日付

渡辺 政雄 (事務長)

萬木 善一 (数学科)

多田 誠 (英語科)

直田 弘美 (家庭科)

●中野 登美男 元事務長 (昭和四十五年四月～五十年一月)は、

本年四月お亡くなりになられました。ここに慎んで、ご冥福をお祈り申し上げます。

本校卒業生の進路状況 (昭和60年の結果)

1. 昭和59年度卒業生 (31期生) 進路状況

(1) 進路の状況

区分	卒業生数	4年・短大進学			就職	就職 及 進学	専修・専 門学校等	その他 不明	浪人
		希望者	進学者	(%)					
男	255	220	31	(14.1)	14	0	25	1	184
女	256	184	146	(79.3)	32	1	43	2	34
計	511	404	177	(43.8)	46	1	68	3	218

(2) 進学の状況

区分	合格者数					進学者数				専修・ 専門 学校等
	4年制		短大			4年制		短大		
	国	私	国	公	私	国	私	国	私	
男	5	37	0	3	5	25	0	2	25	
女	1	26	2	162	1	22	2	121	43	
計	6	63	2	165	6	47	2	123	68	

(3) 業種別就職者数

区	製	電	運	卸	金	サ	*公	そ	計
分	造	気	輸	・	融	ー	務	他	
		ガ	通	販	保	ピ			
		ス	信	売	険	ス			
男	2	0	1	1	0	1	7	1	13
女	12	1	1	4	4	3	6	2	33
計	14	1	2	5	4	4	13	3	46

学校紹介による就職者
26名 (男3名 女23名)

伝 言 板

文化祭・体育大会

旭高校文化祭は九月十四日(土)十五日(日)に、体育大会は九月十七日(金)に開催されます。後輩達の活躍ぶりを見に、多数ご来校下さい。

二期会開催のご案内

一、日時

十月二十七日(日)

正午から

二、場所 母校会議室

三、会費 千円

名簿の販売について

予約限定出版につき、残部が十冊余りしかありませんので、総会当日先着十名様に限り四千円にて販売致します。悪しからずご了承下さい。

来年の総会・懇親会

◎日時 昭和六十一年十月二十六日(日)

◎総会 午後一時

◎懇親会 午後二時～四時

◎会費 未定(当日徴収)

◎来年は、旭窓会報の発行の無い

年(発行は二年に一回)です

で、読売・朝日・毎日・産経の

四大紙に予告記事を掲載いたし

ます。